日本の高１生、世界で、読解力３位、数学５位、科学２位(OECD2022年PISA調査)

― 2025 年から英語の PISA 調査に備え、学習塾・予備校・私立学校こそ、しっかり英語力も身に着けさせよう！―

開倫塾
塾長　林明夫

Q：世界一はどこの国ですか。

A：(１)読解力・数学・科学、３分野のすべてで、シンガポールが世界第１位でした。
シンガポールの強みは何か。
①明確で強固な教育カリキュラム
②教員研修の充実
③科学技術の応用
④一貫した教育政策にあるようです。世界の教育の国、シンガポールから大いに学びましょう。

(２)日本も読解力３位(前回 2018 年は 15 位)、数学５位(前回 6 位)、科学２位(前回 5 位)と大躍進。素晴らしい成績でした。

(３)2025 年からこの PISA 調査に英語が加わります。公用語は英語で、小学校１年生からすべての教科を英語で学んでいるシンガポールはとても有利です。また、多くの教科を英語で学んでいる国もたくさんあります。日本は、英語以外の教科は日本語で学んでいますので、相当頑張る必要があります。

Q：PISA調査の「読解力」のテストはどのようなものですか。

A：(１)「自分で考える力」を最も重視したテストで、極めて教育的です。文章から必要な情報を探し出したり、根拠(理由)を示しながら自分の考えを説明したりする力、思考力と表現力が求められるテストです。

(２)自分の力で教科書を読み、よく理解する。その中で興味・関心のあることを自分の力でさらに調べ、自分の考えをまとめ、授業中に発表し合う。自分の考えを深めることで、この「読解力」は身に着きます。

(３)これから求められるのは、自分自身で教科書を「予習」し、「理解」した上で、大切なことは自分で「身に着ける(定着)させる」こと。さらには、興味・関心のあることを自分で調べ、自分の考えを自分の力でまとめること。その上で、授業に臨み、根拠を示しながら自分の考えを説明すること。友だちの考えも聞きながら、「理解」を深めることです。

(４)高校の「探究型学習」や、大学・大学院や短大・専門学校・専修学校など高等教育機関での「アクティブラーニング」に直結するものす。極めて、よく考え抜かれたものと高く評価します。

Ｑ：エッ、何だかすごいことになっているのですね。

Ａ：（１）その通りです。これからの学校の授業で大切なことは、自分で考える力を伸ばすことです。

（２）これからは、大学も含め学校では、先生が教科書の内容を一語一語ていねいに「これはこうだからね」とわかりやすく説明するような、一方的な授業は少なくなります。

（３）では、どこで教科書に書いてある内容を「理解」し、「定着(身に着ける)」させたらよいのか。家で自分の力で学び、「理解」することが求められます。「理解」した内容を「定着」させるための「音読練習」「書き取り練習」「計算練習」は、すべて「予習」や「復習」として家で行うことが求められます。

Ｑ：家で教科書・教材・問題集の「予習」や「復習」をしないとどうなるのですか。

Ａ：（１）学校の授業は、各自の意見発表やディスカッションが多くなるため、教科書内容の「理解」や「定着」を自分で行うことが少ないと、知識があやふやでよく身に着いていないまま、定期テストや入学試験を受けることになり、よい点数はあまり望めないと考えます。

〇あやふやな知識のまま学校を卒業し、社会に出ることになります。議論は得意だが、しっかりした知識を身に着けていないので、社会に出てとても困ることになります。

（２）ですから、先月号(12 月号)で御説明したように、大学生と同様、中学生・高校生も十分に時間をかけて教科書の「予習」と授業後の「復習」をしっかり行い、自分の力で教科書内容を「理解」すること。

（３）「予習」と「復習」の時間に、教科書・教材・問題集を用いて「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」をやれるだけやる以外にありません。

〇定期テスト対策は、いくら遅くても１か月前から行い、教科書・教材・問題集をスミからスミまで十分に「理解」した上で、スミからスミまで「覚える」「定着させる」以外にありません。

Ｑ：「英語」「数学」「科学」はどのように学んだらよいのですか。

Ａ：（１）英語は、2025 年度の英検から「準２級」と「２級」の間に高校２年生レベルの「新級」がスタートします。早めに５級、４級、３級、準２級を取得し、「新しい級」の合格を目指しましょう。

（２）「数学」「科学」は社会の中での用い方が問われますので、新聞の記事で図表や統計が載っているもの、科学に関係あるものを注意深く読み続けることが大事です。

（３）学校図書館や公共図書館に慣れ親しみ、「数学の読みもの」「科学の読みもの」を探し、自分の興味・関心に合わせてどんどん読むことをおすすめします。

〇「科学のＴＶ番組」「科学の雑誌」はおすすめです。

〇講談社の新書本「ブルーバックス」シリーズは超おすすめです。是非、図書館や書店で手に取ってみてくださいね。

Ｑ：学習塾・予備校・私立学校の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

Ａ：（１）2022 年 PISA 調査の結果、日本が「読解力３位」「数学５位」「科学２位」となったのは、文部科学省と各都道府県・市町村の教育委員会、すべての学校が強烈なリーダーシップのもと、2003 年フィンランド・ショック以来、(2000 年の第 1 回 PISA 調査で日本が首位を占

めていたのに、2003 年の第 2 回でフィンランドが首位を独占したこと)「学習指導要領の改訂」や「全国学力調査」の内容改訂を含め、国と各地方を挙げ、全力で思考力、表現力を重視する PISA 型学力の向上を目指した結果です。高く評価させて頂きます。

(2)これに加え、学習塾・予備校・私立学校の先生方も、教え方を工夫し、「自分で考える力」を伸ばすための教育を全力で行った結果と高く評価させて頂きます。よく頑張ったと考えます。

(3)次の 2025 年 PISA 調査では、日本は英語の PISA 調査に参加しないことを表明しましたが、その次の 2028 年はさすがに見送れないと考えられます。これから 5 年間、2028 年の英語の PISA 調査に向け、「大英語学習ブーム」を我々の手で巻き起こし、英語でもまずは上位 10 位以内を目指そうではありませんか。

(4)2025 年からの「英検準 2 級」と「英検 2 級」の間の「新しい級(高校 2 年相応)」を大いに活用。一人でも多くの中学生に「新しい級」を取得させ、PISA 英語調査、10 位以内の実現に貢献いたしましょう。PISA 調査では、英語でも「考える力」が求められますので、「英語で考える力(Thinking In English)」がポイントとなると考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：僭越とは存知ますが、先生方に参考になる本や読み物をご紹介させて頂きます。

(1)月刊雑誌で参考になるのは、月刊「選択」です。新聞各紙の論説員や編集委員レベルの皆様が、新聞などに書きにくい踏み込んだ内容を、毎号、かなり詳細に伝えてくださり、とても読みごたえのある内容ばかりです。

(2)週間雑誌で参考になるのは、イギリスの経済誌「The Economist(エコノミスト)」です。日本の記事はだんだん少なくなりさみしい限りですが、世界各地で何が問題になっているのかを知るのにとても有益です。

(3)2 か月に 1 回発行の雑誌で参考になるのは、「Foreign Affairs(フォーリン・アフェアーズ)」です。編集が極めてよく行き届いているのと、活字が大きいので読みやすく有難い限りです。

(4)今月のおすすめ本は、ＮＨＫ大河ドラマで放送予定の「源氏物語」です。日本の誇るべき世界第一級の文学作品です。現代語訳がたくさん出ていますので、一年かけて読み切りましょう。同時に、「紫式部」の書き記した「紫式部日記」も超おすすめです。「岩波文庫版」と一緒に、現代語訳や注釈が付いていて有難い、宮崎荘平・全訳注「紫式部日記(上)(下)」講談社学術文庫、講談社 2002 年 8 月 10 日刊です。番組に合わせ、1 年間かけてじっくり読むことをおすすめします。

(5)折角ですので、紫式部と同時代を生きた清少納言著「枕草子」も 1 年間かけて読む。

(6)ＮＨＫＴＶの大河ドラマや朝のＮＨＫＴＶドラマに合わせての読書。日本経済新聞の連載小説(2024 年 1 月末までは「陸奥宗光・外務大臣」)に合わせての読書なども、人生をとても豊かにするものと確信します。是非、御挑戦ください。

(7)最近読み直し、読書指導に興味のある先生方に極めて有用と考えたのは、三木清著「読書と人生」新潮文庫です。「人生論ノート」「哲学ノート」ともに素晴らしい作品です。三木清の主著「構想力の論理(第一・第二)」岩波文庫、岩波書店 2023 年 7 月 4 日刊は、2024 年の新年に最もふさわしい読み物と考えます。是非、御挑戦を。

本年もよろしくお願いいたします。